特別展





National Treasures of

## To-ji Temple

Kukai and the Sculpture Mandala

東寺(教王護国寺)は、

平安京遷都に伴って、王城鎮護の官寺として西寺とともに建立されました。 唐で新しい仏教である密教を学んで帰国した弘法大師空海は、 823年に嵯峨天皇より東寺を賜り、真言密教の根本道場としました。 2023年には、真言宗が立教開宗されて1200年の節目を迎えます。

空海のもたらした密教の造形物は、美術品としても極めて高い質を誇り、 その多彩さや豊かさはわが国の仏教美術の中で群を抜いています。

本展は、空海にまつわる数々の名宝をはじめ、東寺に伝わる文化財の全貌を紹介するものです。 空海が作り上げた曼荼羅の世界を体感できる講堂安置の21体の仏像からなる立体曼荼羅のうち、 史上最多となる国宝11体、重要文化財4体、合計15体が出品されるほか、 彫刻、絵画、書跡、工芸など密教美術の最高峰が一堂に会します。

東寺が1200年にわたり、空海の教えとともに守り伝えてきた至宝をご堪能ください。



#### 東寺講堂から15体の仏像が集結。

#### 史上最大規模の仏像曼荼羅が出現。

空海が密教の真髄を目に見えるかたちで表した、東寺講堂の21体の仏像からなる立体曼荼羅。 本展では、史上最多となる15体の仏像が出品されます。

国宝の11体は、全方位360度から見られるように展示され、講堂とは違った圧巻の仏像曼荼羅を体感していただけます。

### 後七日御修法の道場を再現。

## 2. 真言密教の最高峰とされる至宝を一堂に。

後七日御修法は、空海によって始められた鎮護国家の法会であり、真言宗で最重要の秘密の儀式です。

空海が唐から持ち帰った国宝「密教法具」や重要文化財「金銅舎利塔」など

後七日御修法に関する東寺1200年の寺宝とともに道場を再現します。

大治2年(1127)に制作された国宝「十二天像」、国宝「五大尊像」は全幅を公開する貴重な機会になります。(展示替えあり)

### 貴重な両界曼荼羅図を公開。

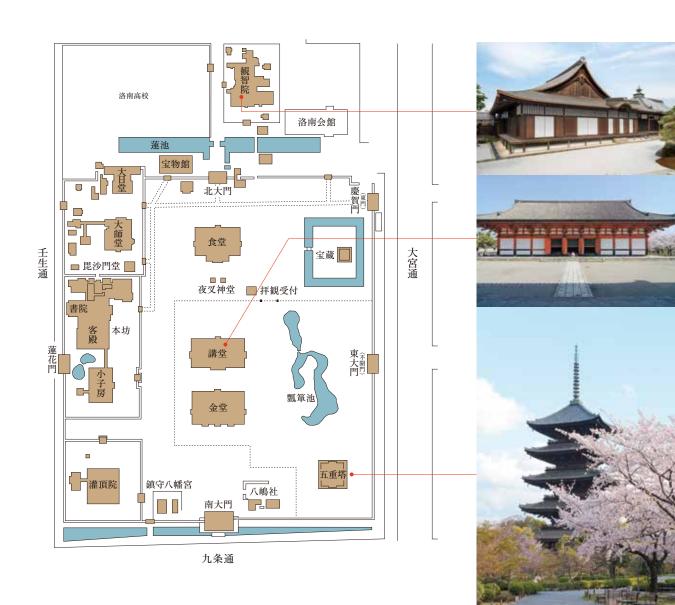
## 3. 東寺のマンダラワールドを堪能する。

密教美術の宝庫である東寺は、「曼荼羅のお寺」といわれるほど、数多くの曼荼羅を所蔵し、

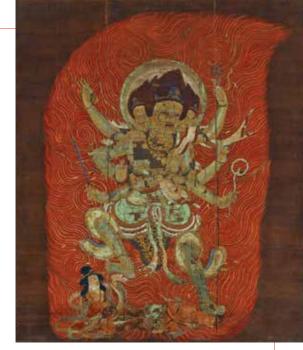
国宝・重要文化財の両界曼荼羅図だけでも6件が伝来しています。

本展では、現存最古の彩色両界曼荼羅である国宝「西院曼荼羅(伝真言院曼荼羅)」をはじめ、

長さ約5メートルにおよぶ国内でも最大級の「甲本」「元禄本」と「敷曼荼羅」の4件を含む多くの曼荼羅を公開します。



す。空海は、正月に宮中で修される後七日御修法を始め 空海の書の中でも最も格調高い「風信帖」が残っていま 在でそのすべてを修めました。806年に帰国した後、 空海は密教を求めて した。現在は東寺で行われますが に東寺を賜り が中国から持ち帰っ 31歳で中国に渡 | 真言密教の根本道場としまし 、真言宗で最も重要 た絵画や工芸品 ŋ 後七日御修法 の滞



#### おう 三世明王(五大尊像のうち)

平安時代・大治2年(1127)

[展示期間:3月26日(火)~4月21日(日)]

鳥羽院の命で描かれた、平安時代後期貴族の美意識 が凝縮した作例。東寺宝蔵にあった宮中真言院後七 日御修法の本尊画像が、大治2年の火災で失われたた め、新たに制作されたのが本画像。多面多臂の醜怪な 明王の姿を嫋やかに表す。



#### 空海

讃岐国(現在の香 川県)の生まれ。中

国に留学して密教を学び、帰国後、真言宗を開い て東寺や高野山を拠点に密教を広めました。密教 の理解には造形物が不可欠という師の教えに従 い、曼荼羅や彫刻などの制作を指導しました。弘 法大師とも呼ばれ、空海自身が信仰の対象となっ ています。優れた書家としても知られています。

#### 重要文化財

弘法大師像(談義本尊)(部分)

[展示期間:3月26日(火)~4月21日(日)]



### 風天 (十二天像のうち)

平安時代・大治2年(1127) 京都国立博物館蔵

[展示期間:5月14日(火)~6月2日(日)]

五大尊像と同じく、火災で失われた宮中真言院の後七日 御修法用の画像として鳥羽院の命で制作されたもの。優 美な形態、衣の豊かな色彩、その上に施された彩色と極細 に切った金箔を使った截金による文様の組み合わせが絶 妙の美を生み出す平安仏画の名品。



### 風信帖第一通)

平安時代・9世紀 [展示期間:3月26日(火)~5月19日(日)] 空海から最澄に宛てた3通の書状を貼り継いだもので、第一通書き出 しの「風信雲書…」の文言から「風信帖」と通称される。付属の寄進状に より、もと延暦寺にあったが南北朝時代に東寺に寄進されたことが知 られる。平安時代仏教史の基本史料として貴重であるとともに、壮年期 の空海を代表する筆跡であり、書道史上も古来珍重されてきた。

石独东面と思る我 室山等會一番 in るるぬ女達 孫攀彼属限 室無推冷 0 頂戴 看高 何 慢机 挺



中国 唐時代·9世紀

金剛盤の上に五鈷鈴と五鈷杵を 据えた密教法具のセット。密教で はこうした組法具が修法壇に置 かれた。特にこの法具は、空海が 帰国するに際して、師の恵果が授 けた法具類の一部と考えられる もので、空海請来の霊物として 尊崇されてきた。宮中の真言院で 行われた後七日御修法をはじめ とする、重要な法会に用いられ、 今も東寺灌頂院の道場で行われ る後七日御修法では、大阿闍梨 の道具として重要視されている。

※所蔵の記載のないものはすべて東寺蔵

## 全密宝教

# までの仏教教団とは大きく異なる形式をとります。造真言密教では、造形や儀礼、荘厳の仕方において、それ



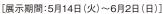
の細かな規則を図

重要文化財

### 蘇悉地儀軌契印図織

中国 唐時代・咸通5年(864) [展示期間:3月26日(火)~4月21日(日)]

密教では、修行を成就させるにあたり真言を唱えることと 並んで、手で印を結ぶことが重視される。この図は金剛界・ 胎蔵界のふたつを統合した働きをもつ蘇悉地法の際の印 の作法を示したもの。巻末の奥書から唐の趙琮という人物 が咸通5年に描いたことがわかる。















形の上では、大日如来を中心として多くの如来・菩薩







[展示期間:4月23日(火)~5月12日(日)]

二天屛風

平安時代·建久2年(1191)

密教の灌頂儀礼で用いられた屛風。ほとばしる描線、明度の 高い彩色の表現は、従来の十二天像に対して「新様」と呼ば れ、新来の宋代絵画の影響が色濃い。絵は宅磨勝賀筆、上 部の種子(梵字)は仁和寺御室守覚法親王筆と伝える。







両界曼荼羅図

(西院曼荼羅[伝真言院曼荼羅])

平安時代・9世紀

[展示期間:4月23日(火)~5月6日(月・休)]

現存最古の彩色両界曼荼羅図。表情や体軀の 描写、強い量取りなどにインド風が強く表れた画 風が特徴である。宮中真言院で使用されたとい う伝承から「伝真言院曼荼羅」の名称があるが、 近年、修理銘から東寺の西院で使用されたもの であることが判明した。



平安京遷都にともなって建立されたには、1200年にわたり寄せられたには、1200年にわたり寄せられたには、1200年にわたり寄せられたには、1200年におたります。本章では、羅城門伝説が伝わります。本章では、羅城門伝説が伝わります。本章では、羅城門伝記が伝わります。本章では、羅城門伝説の書の歴史や宝物についてまとめた言意・の言仰と歴史を今日に伝える宝物のの信仰と歴史を今日に伝える宝物のの信仰と歴史を今日に伝える宝物のの信仰と歴史を今日に伝える宝物のの信仰と歴史を今日に伝える宝物のの信仰と歴史を今日に伝える宝物のの信仰と歴史を今日に伝える宝物のの信仰と歴史を明明ない。

#### 国宝

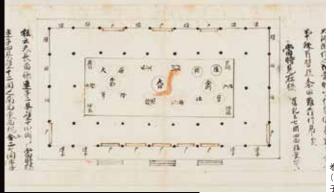
### 東宝記

南北朝~室町時代·14世紀 [展示期間:

巻一 3月26日(火)~4月30日(火)

巻二 5月1日(水)~6月2日(日)]

東寺の諸堂舎、仏像、法会などの沿革や現状を記した寺誌。南北朝時代の東寺の興隆と教学研究の発展に尽くし、観響院を創始した寺僧杲宝とその弟子賢宝の編纂になる。東寺創建以来の文書記録類を多く引用しており、東寺の歴史を語る上で欠かすことのできない史料である。



巻一(部分) (東寺講堂の様 子が図示される)



## 阿修羅(八部衆面のうち)

鎌倉時代・13世紀

空海が請来した舎利を祀る、舎利会で用いられた仮面。仏法を守護する八部衆に扮した人びとが、興をかついで練り歩く光景がしのばれる。八部衆面のうち七面が現存し、なかでも阿修羅面は三面の異形を手際よくまとめた佳品。



人口住政都學行所在高和新学 内立七人法權其以 今信後其不之 等我十三十二 統立其 雅本送者一夏九川橋納 董的祖主之其也但五十人班 可穿在古過位公田地 信佐丁克克孫勢最事 鎮守八幅等的三季行奉 言隆五改後內里僧 財化到京者官前可遇其計 祖在古姓或事 以此一日供他猪番 你些情人文任治寺不 扶 敬注意,幸人省廣海 定置限造 料 丁得用代言野茶及 東方照隆係事 新武事 可定然之 外

#### 国宝

### **兜跋毘沙門天立像**

中国 唐時代・8世紀

中国・唐時代に造られた、異色の毘沙門天像。腰が高い細身のスタイルと、中央アジア風の甲が特色で、日本でも各地で模刻が造られるなど信仰を集めた。平安京の羅城門に安置され、都を守護したと伝えられる。

#### 国宁

#### でするだってれ、のうしんがれ 後宇多天皇宸翰 とう じょう りゅう じょう じょう こと がき 東寺興隆条々事書(部分)

鎌倉時代·徳治3年(1308) [展示期間:3月26日(火)~4月30日(火)]

真言僧としての修法の伝授を受けた後宇多天皇が、東寺に修行僧50人を置き、僧坊や寺領を整備して真言密教の興隆を図るように指示したもの。この後、山城国上桂荘、パ条院町など、荘園や洛中の土地の寄進が行われ、中世寺院としての東寺再興のきっかけとなった。

#### 講堂諸尊の配置図

五仏、五菩薩、五大明王に加え、梵天・帝釈天 と四天王の21体からなる仏像群。密教の根本 経典である『金剛頂経』の世界観を立体的に表 したと考えられる。大半が承和6年(839)に開 眼供養された像で、本展では史上最多の出品 となる15体が展示される。



(◉国宝 ◎重要文化財)※赤字が出品される15体

## で成立しました。複雑な密教の世界観を視覚的 曼荼羅とは、仏の世界を表したもので、

に表すことから布教に適し、アジア各地に普及 しました。空海は長安で師恵果から両界曼荼羅

ないものに開き示す」(『御請来目録』)と語るよことは困難である。かわりに図画をかりて悟ら

を伝授されますが、「密教は奥深く

、文章で表す

#### 重要文化財

### 而界曼荼羅図 (數曼荼羅)

平安時代·天永3年(1112)

密教の灌頂儀礼では、灌頂を受ける者の有縁の 仏を決める投華得仏(華を投げて当たった仏と 縁を結ぶ)の儀式が行われる。その際、壇上に敷 かれるのが敷曼荼羅で、その上に華が投げられ る。本図のように全ての像が放射状に中心を向 く姿で描かれるのは珍しい。

[展示期間:5月1日(水)~6月2日(日)]

#### 重要文化財

像から構成される立体曼荼羅です。

点ともいえるのが、講堂に安置された21体の仏

メージの力を重視しました。その到達

金剛虚空蔵菩薩・法界虚空蔵菩薩

(五大虚空蔵菩薩坐像のうち) 中国 唐時代·9世紀

五体一組となる五大虚空蔵菩薩のうち、金 剛虚空蔵(画像左)と法界虚空蔵(右)。も とは山科の安祥寺に伝わり、空海の孫弟子 である恵運が中国からもたらしたという。 五体全てが現存し、台座の馬や獅子まで制 作当時の姿を伝えるのは貴重。



[展示期間:3月26日(火)~4月30日(火)]







特別展



2019.3.26  $\bigcirc$  -6.2  $\bigcirc$ 

## TOKYO NATIONAL MUSEUM (UENO PARK)

9:30~17:00(入館は閉館の30分前まで) ※ただし、会期中の金曜・土曜は21:00まで開館 開館時間

休館日 月曜日、5月7日(火) ※ただし4月1日(月)[特別展会場のみ開館]・29日(月・祝)、5月6日(月・休)は開館

東京国立博物館、真言宗総本山教王護国寺(東寺)、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション 主催

特別協賛 大和証券グループ

NISSHA 協賛

観覧料(税込)	当日券	前売券	団体券
一般	1,600円	1,400円	1,300円
大学生	1,200円	1,000円	900円
高校生	900円	700円	600円

※中学生以下無料 ※団体は20名以上

※障がい者とその介護者1名は無料です。入館の際に障がい者手帳などをご提示ください。

※前売券は、東京国立博物館正門チケット売場(窓口、開館日のみ、閉館の30分前まで)、展覧会公式サイト、

各種プレイガイドにて、2019年1月15日(火)から3月25日(月)まで販売。お得なチケットは展覧会公式サイトをご覧ください。

展覧会公式サイト https://toji2019.jp | お問合せ:03-5777-8600(ハローダイヤル)

報道関係お問い合わせ

特別展「国宝 東寺ー空海と仏像曼荼羅」広報事務局(株式会社OHANA内) TEL:03-6869-7881

E-mail:toji2019@ohanapr.co.jp



美術展の最新情報ゾクゾク更新中



帝釈天騎象像

平安時代·承和6年(839)

着甲し、武器である金剛杵を手にする仏法の守護神。 もとはバラモン教のインドラ神で、ブラフマー神である梵天とともに仏教に取りる梵天とともに仏教に取りたいからい。須弥壇上では、西方に配される。ゆったりと象にに配される。ゆったりと象にたる。空海がもたらした新しい情報に基づいて造られたのだろう。

ある。 台座に坐していた可能性が 仏や五菩薩も当初は鳥獣の 今は蓮華座に代わるが、五





# 金剛夜叉明王立像

平安時代·承和6年(839)

須弥壇の西方に安置され

して東北に配される金剛夜 た五大明王のうち、北方尊と

右の手に金剛鈴と金剛杵を持えられており、体の正面で左 つのは金剛薩埵を意識した ために仏が変化したものと考 明王とは、仏敵を調伏する 造営工房である造東寺所

ちがいない。 めており、熱心に監督したに の責任者は空海みずから務 くまとめられた点は見事。 表わす異形ながら、違和感な のに加え、正面の顔は五眼を 形といえる。顔が三面である





降三世明王立像

東寺巌平安時代・承和6年(839)

明王。 して東南に配される降三世る五大明王のうち、東方尊とる五大明王のうち、東方尊と

インドで成立した密教では、ヒンドゥー教に対する優位を説くため、恐ろしい神々の姿を取り入れた明王が生み出された。降三世明王も異み出された。降三世明王も異ない神を過伏し、仏教に帰依をせると考えられたが、足下にシヴァ神夫婦を踏みつけると考えられたが、足下にシヴァ神夫婦を踏みつける。

めだろう。 世紀)の官営工房を継承する 世紀)の官営工房を継承する められたのは、奈良時代(8





軍禁利明王立像

東寺蔵平安時代・承和6年(839)

明王。 して西南に配される軍茶利る五大明王のうち、南方尊とる五大明王のうち、南方尊と

を調伏すると信じられた。顔 こそ一面だが、腰には虎皮を るなど、呪術性を醸している。 五大明王は、いずれも頭と 体幹部が一材から彫り出され、装身具などが漆と麻の繊 れ、装身具などが漆と麻の繊 れる。こうした点から、作者 は木と漆の両者の扱いに熟





# 大威德明王騎牛像

平安時代·承和6年(839)

る五大明王のうち、西方尊と して西北に配される大威徳 須弥壇の西方に安置され

め、文殊菩薩が変化した明王界の王ヤマ神を調伏するた た姿で表わされる。 の乗り物である水牛に坐し とされる。そのため、ヤマ神 と呼ばれ、その名のとおり冥 インドではヤマーンタカ

牛も制作当時の姿を留めてお り、大変貴重である。 とだろう。重量感あふれる水 服するにふさわしく見えたこ は、当時の人びとには死を克 た六面六臂六足の異様な姿 密教が伝わるまではなかっ





## 持国天立像

東寺蔵平安時代・承和6年(839)

前傾した姿勢で拝する者に迫り、怒張した表情もあいまって、類を見ない迫力を示す。勢いのある体勢とともに、後方へなびく衣も躍動感に、後方へなびく衣も躍動感に、後方へなびく衣も躍動感に、後方へなびら衣も躍動感が、寒密な甲の彫刻なれた。深く刺出し、内刳りを施さない。深く刺まれたなの襞や、緊密な甲の彫刻など、卓越した木彫技術が見どど、卓越した木彫技術が見どころ。

わけ優れている。と増長天の出来栄えがとり





增長天立像

東寺蔵平安時代・承和6年(839)



とら。 四天王を代表する遺品とい 平安時代前期(9世紀)の る体軀と華麗な彩色が賞さ

に漆を塗り、異様な迫力を醸れる。瞳に銅釘を打ったうえ



建当時のまま伝えられる。 焼失して後世再興されているが、四菩薩は創中尊のみ文明18年(1486)の土一揆で調堂須弥壇の東方に安置される五菩薩像。

にも正統的な作風が示されている。 でありながら、頭から台座蓮肉まで一材から でありながら、頭から台座蓮肉まで一材から が 大不屎漆をかけるなど、奈良時代(8世紀) の技法を受け継いでいる。 両膝を左右に張り、均整のとれた体躯や、 写実的な衣の繊維を混いずれも五仏の周囲に配される密教の仏いずれも五仏の周囲に配される密教の仏



## 金剛法菩薩坐像

東寺蔵平安時代・承和6年(839)



金剛業菩薩坐像

東寺蔵平安時代・承和6年(839)

金剛薩埵菩薩坐像

東寺蔵 平安時代·承和6年(839)



金剛宝菩薩坐像

東寺蔵平安時代・承和6年(839)





大日如来とあわせて、金剛界曼荼羅の五仏講堂本尊の周囲に配される四如来像。

6年(1497)に再興された。よる火災で5体とも失われたが、本尊は明応を構成する。文明18年(1486)の土一揆に

明在の四如来は天保5年(1834)まで現在の四如来は天保5年(1834)まで



## 重要文化財

## 阿弥陀如来坐像

東寺蔵 江戸時代·天保5年(1834)



不空成就如来坐像雪爽化財

東寺蔵 江戸時代·天保5年(1834)

## 阿閦如来坐像重要文化財

東寺蔵 江戸時代·天保5年(1834)



## 宝生如来坐像重要文化財

東寺蔵 江戸時代·天保5年(1834)

